

『臥龍梅』 蔵便り

平成二十六年師走



拝啓 年の瀬も間近になってまいりましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

今月もご報告することが盛りだくさんです。11月14日(金)、東海道線の在来線に1時間半近く揺られて磐田グランドホテルで開かれたお酒の会に行っていました。題して**酒好の会**。50回記念ということで弊社にお声が掛かったものです。臥龍梅は西部地区では比較的馴染みが薄いのでAWAYの戦場に赴く覚悟で出掛けました。ところが案に相違してけっこうファンが多く、会場中央に設置したブースに各



蔵取って置きのお酒が配置されたのですが、わが臥龍梅の大吟醸の袋吊りは開会とほぼ同時に空になっておりました。また、テーブルに同席した初対面のお客様は今日のお酒の中では臥龍梅が一番美味しいと嬉しいことを言ってくれました。翌週の11月20日には兵庫県西脇市へ山田錦と愛山の買い付けに行っていました。忙しいさなか、新幹線に乗って一日がかりで出掛けるのは大変ですが、一年に一度、圃場を拝見しながら生産者とじかに話をするのが大事な恒例行事と

なりました。写真をご覧ください。大型トラックをあぜ道のような狭い道路に乗り入れて米の積み込み作業をしており、周りには地味の肥えた圃場が広がっております。理想的な環境のもと熟練の酒米造りの手で育てられた山田錦と愛山は見事な出来ばえでした。今年も必ずや美味しいお酒をお届けできるものと存じます。その翌々日の11月22日(金)には応援団員、望月さんの主催する**寄席月の穂V**に協力参加いたしました。以前にもご紹介した上方落語の名人、**月亭文都師匠**の落語会の中入り後に試飲会を、終了後にワンコインでの呑酒会を開催したものです。市中の呉服屋さんのお店を借りて座敷に檜の演台と金屏風を設え、昼夜の二部構成で80名以上のお客様が集まりました。古典落語の大作を熟演する文都師匠をご覧ください。お酒を題材にした噺を選び、途中でさりげなく臥龍梅の名前を連呼してくれた師匠の気遣いに感謝いたします。終了後の会場はこのとおりのいつもの臥龍梅のお酒の会に変貌しました。臥龍梅のそろいの半被を着ている三人の、左から、小生、文都師匠、望月さんです。そう、文都師匠も望月さんも臥龍梅の会の恒例のジャンケン大会で半被をゲットしているのです。呑むほどに酔うほどに会場は盛り上がり、あっという間に予定終了時間の11時になりました。



さて、今月は在庫を切らして長らくお待ちいただいていた**純米吟醸の活性にごり酒、誉富士 55%の純米吟醸**、そして新商品の**山田錦 45%の純米大吟醸**とぞくぞく新酒をご案内してまいります。いずれも自信をもってお奨めできる仕上がりです。数に限りのある商品もございますのでお早めにご注文ください。

気ぜわしい毎日ですが、おからだには十分にお気をつけられますよう。

敬具

平成26年12月吉日

鈴木 克昌